

「論理・表現Ⅰ」単元ごとの指導と評価の計画

愛知県立岩倉総合高等学校

教諭 藤本 貴之

1 日時・実施場所

〈省略〉

2 学 級

〈省略〉

3 学級観

〈省略〉

4 教 材

〈省略〉

5 単元の目標

マイバッグをより多くの人が持っていきべきかどうかについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を理由や具体例などを工夫して、順序立てて詳しく書いて説明している。

6 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 発表や対話などを聞いて、ゆっくり話されていれば、その概要を理解することができる。 英語による指示が理解できる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 説明や物語などを読んで、情報や考えなどの概要を捉えることができる。 相手が自分に書いた文を読み取ることができる。
話すこと [やり取り]	<ul style="list-style-type: none"> 聞いたり読んだりしたことについて、あいづちをしながら簡単な意見交換をすることができる。 与えられた話題について自分の意見を理由を含めて、即興で2分程度話し合うことができる。
話すこと [発表]	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことについて、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、1分程度の発表をすることができる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えについて、簡単な英語を用いながら、即興で50語程度の文章を書くことができる。 話し合いに基づき、情報や考えなどをまとめ、100語程度の文章を書くことができる。

7 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表]	/	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、マイバッグを持っていくことについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を理由や具体例とともに順序立てて詳しく口頭で発表している。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、マイバッグを持っていくことについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を理由や具体例とともに順序立てて詳しく口頭で発表しようとしている。

書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や主張を伝えるために必要な論理の構成や展開及び表現等を理解している。 マイバッグを持っていくことについて、自分の意見や主張を、理由や具体例などを用いながら、順序立てて説明する技能を身に付けている。 	読み手によく理解してもらえるように、マイバッグを持っていくことについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、理由や具体例などを工夫しながら、順序立てて詳しく書いて伝えている。	読み手によく理解してもらえるように、マイバッグを持っていくことについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、理由や具体例などを工夫しながら、順序立てて詳しく書いて伝えようとしている。
------	--	---	---

8 パフォーマンステスト

○領域

話すこと [発表]

○内容

マイバッグを持っていくべきかどうかについて、自分の考えを複数の理由と説明とともに話して伝える。

○「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：マイバッグを持っていくべきかどうかについて自分の意見が述べられている。
条件2：マイバッグを持っていくべきかどうかについて二つ以上の理由と具体例が順序立てて述べられている。
条件3：動名詞の文法がほぼ間違いがなく3回使っている。

○採点の基準 (ワークシートのルーブリック参照)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	/	三つの条件を満たした上で、視覚材料を見せる表現を使いながら伝えている。	メモなどを見ずに、聞き手を見ながら、1分30秒以上、聞き手が聞き取りやすい声量とスピードで発表している。
b		三つの条件を満たして伝えている。	メモなどを見ずに、聞き手を見ながら、1分30秒以上、数回不自然に止まりながらも聞き手が聞き取りやすい声量で発表している。
c		「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの： a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの： b

「努力を要する」状況と判断されるもの： c

※「言語面の正確さは、言語使用を繰り返す中で徐々に高まっていくことを踏まえ」(国立教育政策研究所, 2021)、本校では、「話すこと [発表]」について評価する際に「知識・技能」を評価に入れていない。言語面の正確さよりも内容面で判断することとしている。ただし、単元の目標となる文法について間違いがある場合には、伝えることに支障があると判断し、「思考・判断・表現」の評価で考慮するものとする。また、「主体的に学習に取り組む態度」についての評価には、「思考・判断・表現」の評価と一体的にパフォーマンステストで行う評価があり(国立教育政策研究所, 2021)、パフォーマンステストまでにどれだけ準備をして、「思考・判断・表現」で求められている

規準を満たそうと努力したかを測るために、「メモなどを見ずに」や「聞き取りやすい声量とスピード」という側面から練習したことがテストに表面化されることを期待して評価することとしている。上で示した基準をワークシートでは、「Strategies」「Content」「Eye Contact」「Fluency」に細分化してルーブリックを作成し、生徒と授業者で共有している。評価を実際に行う際には、信頼性の向上を図るため、改めて教員間で相談してルーブリックをより明確なものにしていく。「話すこと」においては、年度当初に昨年度撮影したパフォーマンステストの映像を担当教員で視聴し、採点を実際に行ってから、パフォーマンステストを実施している。

○領域

書くこと

○内容

マイバッグを持っていくべきかどうかについて、自分の考えを理由とともに書いて伝える。

○「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：マイバッグを持っていくべきかどうかについて自分の意見が述べられている。
条件2：マイバッグを持っていくべきかどうかについて二つ以上の理由と具体例が順序立てて述べられている。
条件3：動名詞の文法がほぼ間違いがなく3回使っている。

○採点の基準（ワークシートのルーブリック参照）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a		三つの条件を満たしたうえで、 First Writing からの改善が見られる。	同じ表現を繰り返し使用することなく、モデル文にはない表現を多用しており、140 語以上書いてあり、 First Writing からの改善が三つ適切に書かれている。
b		三つの条件を満たして話して伝えている。	モデル文を参考に 140 語以上書いてある。
c		「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：b

「努力を要する」状況と判断されるもの：c

※「言語面の正確さは、言語使用を繰り返す中で徐々に高まっていくことを踏まえ」（国立教育政策研究所，2021）、本校では、「書くこと」について評価する際に「知識・技能」を評価に入れていない。言語面の正確さよりも内容面で判断することとしている。ただし、単元の目標となる文法について間違いがある場合には、伝えることに支障があると判断し、「思考・判断・表現」の評価で考慮するものとする。また、「主体的に学習に取り組む態度」についての評価には、「思考・判断・表現」の評価と一体的にパフォーマンステストで行う評価があり（国立教育政策研究所，2021）、**First Writing** から **Second Writing** までにどれだけ工夫をし、「思考・判断・表現」で求められている規準を満たそうと努力したかを測るために「同じ表現を繰り返し使用することなく」や「130 語以上」、「**First Writing** からの改善が三つ」書かれているかを評価することとしている。上で示した基準を「content」「length」に分けてルーブリックを作成し、生徒と授業者で共有している。評価を実際に行う際には、信頼性の向上を図るため、改めて教員間で相談してルーブリックをより明確なものにしていく。「書くこと」については、年度当初に担当教員で数人採点をしたものを持ち寄り、話し合ったあとにすべての採点を行う。

9 本単元の指導と評価の計画

(聞…聞くこと、読…読むこと、や…話すこと [やり取り]、発…話すこと [発表]、書…書くこと)

時間	ねらい (■)、言語活動等 (丸数字)	内容のまとめ					生徒の活動状況を見届ける観点 (【 】)・方法 (○)
		聞	読	や	発	書	
1	<p>■単元の目標を理解し、課題に対する理解を深める。</p> <p>※単元を通してワークシート(資料)を継続的に使用する。</p> <p>①環境についてどのくらい意識があるか質問に答え、ペアで意見交換する。</p> <p>②必要に応じて、文法事項を確認する。</p> <p>③モデル文を読み、Mind Map をする。</p> <p>④モデル文について図式化したメモを参考にペアに伝える。</p>		○	○	○		<p>【知】使われている語句・表現を理解しているか。</p> <p>【思】モデル文に合わせて図式化できているか。</p> <p>【態】ペアに積極的に話そうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>
2	<p>■自分の意見や主張のアウトラインを書き出す。</p> <p>①自分の考えをワークシートや教科書の表現を参考にしながら、英文を書き出していく。</p> <p>②モデル文を参考に理由や具体例の書き方を確認する。</p> <p>③ライティングのルーブリックを提示する。</p> <p>④①～③を参考に、First Writing に取り組む。 (ロイロノート・スクール(株式会社LoiLo、以下「ロイロノート」と表記)を使用して提出する)</p>		○			○	<p>【知】適切な語句・表現を使用しているか。</p> <p>【態】モデル文を参考に文章の構成を工夫して書こうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>
3	<p>■ペアで読み合い、アドバイスを参考にしながら Second Writing を書き出す。</p> <p>①スピーチ発表のルーブリックを提示する。</p> <p>②自分の書いてきた First Writing を参考にマイバッグを持っていくべきかどうかについてグループで発表をする。</p> <p>③②のグループで First Writing をロイロノート上で共有し、気になるところに線を引く、話し合いをしながらアドバイスをし合う。</p> <p>④②、③をグループメンバーで繰り返し行う。</p> <p>⑤過去の作品によく見られた文法間違い(Common Errors)を確認する。</p> <p>⑥①～⑤で得た情報をもとに Second Writing を書く。 (ロイロノートを使用して提出する)</p>	○	○		○		<p>【知】適切な語句・表現を使用しているか。</p> <p>【態】モデル文を参考に文章の構成を工夫して書こうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>
4	<p>■ペアで読み合い、発表への準備を行う。</p> <p>①自分の書いてきた First Writing を参考にマイバッグを持っていくべきかどうかについてグループで発表をする。</p>	○			○		<p>【態】ペアに積極的に話そうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>

	<p>②①のグループで Second Writing をロイロノート上で共有し、気になるところに線を引き、話し合いをしながらアドバイスをし合う。</p> <p>③①、②をグループメンバーで繰り返し行う。</p> <p>④発表用のスライド作成の説明を行う。 (発表用スライドは各自でスライドを作成する。語句や文字は載せてもよいが文で載せないことを伝える)</p>		○					
5	<p>■スピーチ発表と Second Writing 提出</p> <p>・ランダムで呼ばれた番号の生徒からスライドを使用しながら発表を行う。</p>					思 態	思 態	<p>【知】適切な語句・表現を使用しているか。</p> <p>【態】モデル文を参考に文章の構成を工夫して書こうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p>
後日	振り返りシートの提出及びペーパーテスト						知 思	



Writing Essay

Are you eco-friendly?



Class() No.() Name()

Before writing

Write Yes or No.

Your Answer

Friends' Answers

1. Do you turn off the lights when you leave a room?				
2. Do you buy recycled paper products?				
3. Do you use public transportation?				
4. Do you take your own shopping bags when you go shopping?				
5. Do you separate and sort garbage?				
6. Do you take your trash home?				

According to a town survey, only 30% of the people take their own bags when they go shopping. Do you think more people should take their own bags with them when they go shopping?

Which sentences support the idea. If it supports the idea write Agree. If not, write Disagree.

- Using plastic bags causes pollution. . . . ()
- Buying plastic bags is just waste of money. . . . ()
- People don't need to pay for plastic bags. . . . ()
- People can reuse plastic bags for many purposes. . . . ()
- People can reduce waste. . . . ()
- People don't always bring their own bags. . . . ()
- Buying plastic bags doesn't cost as much as buying their own bags. . . . ()

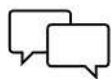
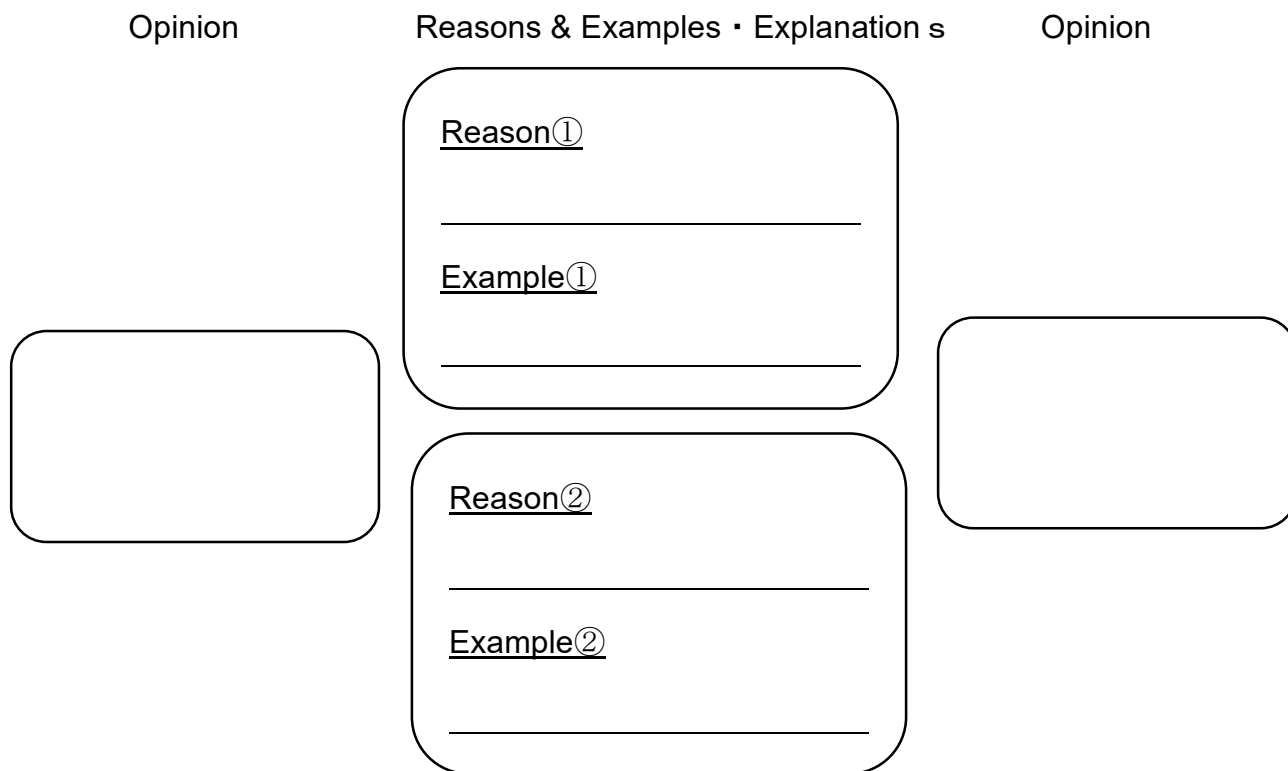


Reading: Read the essay



I don't think more and more people take their own bags when they go shopping. First, buying plastic bags doesn't cost as much as buying their own bags. For example, although it costs about 3 yen to get a plastic bag, we have to pay 1,000 yen to buy an eco-bag. We can buy about 300 plastic bags with that amount of money. If we forget to bring our bags, we have to pay another 1,000 yen. It is absolutely wasting money. Next, people can reuse plastic bags for many purposes. For example, a plastic bag can be used as a garbage bag. Especially in cars, we eat snacks, and we want to throw the packagings away. We can use the plastic bags as garbage bags and take them home. Because of these reasons, I don't think more people need to carry their own shopping bags. (146 words)

モデル文を図式化してみよう!



Communication Practice: Retelling 上の図式をもとにモデル文を話してみよう。



Think! モデル文や Q&A をもとに自分の意見を書こう!

Opinion	
Reason①
Example①
Reason②
Example②
Opinion	

1st Writing **Are you eco-friendly?**
 Class () No() Name ()

									10
									20
									30
									40
									50
									60
									70
									80
									90
									100
									110
									120
									130
									140
									150

動名詞 を使用した箇所を○で囲みましょう。 【 】words

アンダーラインとコメントには同じ色を使おう！！

1st editor: _____ (comment)	2nd editor: _____ (comment)	3rd editor: _____ (comment)
(Advice)	(Advice)	(Advice)

 **peer editing**

友達の英作文に、「もっとこうしたらいいよ」や、「もっとこんなことを書こう」という advice、そして、「もっとこんなことが知りたい」という questions を書こう！

___ ☆	おもしろい、またはよい内容、自分も使ってみたい表現
___ ?	内容の分からない部分、語句
___ more	もっと詳しく知りたいところ 質問をすぐそばに書こう。
___ me, too	共感できる部分
___ !	そうなのか、なるほどと思ったところ

Are you eco-friendly?

Peer Editing

Class () No() Name ()

Checklist

<p style="text-align: center;">Name ()</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> より多くの人マイバッグを持っていくかについて意見が書かれている。 <input type="checkbox"/> 二つ以上の理由がある。 <input type="checkbox"/> 理由が具体例とともに順序立てて説明されている。 <input type="checkbox"/> 動名詞を3回以上正しく使っている。 <input type="checkbox"/> 文法の間違いが無い。 <input type="checkbox"/> 同じ表現を繰り返し使用することがない。 <input type="checkbox"/> 表現に工夫が見られ、例文だけで表現されていない。 <input type="checkbox"/> 140語以上書いてある。 <input type="checkbox"/> First Writing からの改善が三つ適切に書かれている。 <input type="checkbox"/> First Writing からの改善が書かれている。 	<p style="text-align: center;">Name ()</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> より多くの人マイバッグを持っていくかについて意見が書かれている。 <input type="checkbox"/> 二つ以上の理由がある。 <input type="checkbox"/> 理由が具体例とともに順序立てて説明されている。 <input type="checkbox"/> 動名詞を3回以上正しく使っている。 <input type="checkbox"/> 文法の間違いが無い。 <input type="checkbox"/> 同じ表現を繰り返し使用することがない。 <input type="checkbox"/> 表現に工夫が見られ、例文だけで表現されていない。 <input type="checkbox"/> 140語以上書いてある。 <input type="checkbox"/> First Writing からの改善が三つ適切に書かれている。 <input type="checkbox"/> First Writing からの改善が書かれている。
<p style="text-align: center;">Name ()</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> より多くの人マイバッグを持っていくかについて意見が書かれている。 <input type="checkbox"/> 二つ以上の理由がある。 <input type="checkbox"/> 理由が具体例とともに順序立てて説明されている。 <input type="checkbox"/> 動名詞を3回以上正しく使っている。 <input type="checkbox"/> 文法の間違いが無い。 <input type="checkbox"/> 同じ表現を繰り返し使用することがない。 <input type="checkbox"/> 表現に工夫が見られ、例文だけで表現されていない。 <input type="checkbox"/> 140語以上書いてある。 <input type="checkbox"/> First Writing からの改善が三つ適切に書かれている。 <input type="checkbox"/> First Writing からの改善が書かれている。 	<p style="text-align: center;">Name ()</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> より多くの人マイバッグを持っていくかについて意見が書かれている。 <input type="checkbox"/> 二つ以上の理由がある。 <input type="checkbox"/> 理由が具体例とともに順序立てて説明されている。 <input type="checkbox"/> 動名詞を3回以上正しく使っている。 <input type="checkbox"/> 文法の間違いが無い。 <input type="checkbox"/> 同じ表現を繰り返し使用することがない。 <input type="checkbox"/> 表現に工夫が見られ、例文だけで表現されていない。 <input type="checkbox"/> 140語以上書いてある。 <input type="checkbox"/> First Writing からの改善が三つ適切に書かれている。 <input type="checkbox"/> First Writing からの改善が書かれている。

2nd Writing

Are you eco-friendly?

Class () No() Name ()

1										10
2										20
3										30
4										40
5										50
6										60
7										70
8										80
9										90
10										100
11										110
12										120
13										130
14										140
										150

動名詞 を使用した箇所を○で囲みましょう。

【 】words

1st editor: _____ (comment)	2nd editor: _____ (comment)	3rd editor: _____ (comment)
(Advice)	(Advice)	(Advice)



First Writing から改善した点を説明しよう！

【内容・構成について書くこと。】(例:「～とアドバイスをもらい、～しました」)

行目	
行目	
行目	

Content【思考】	Length【主体】	Total
/5	/5	/10

Rubric

**How your essay is evaluated**

The essay is worth a total of 10 points.

Your Essay is evaluated in two aspects below.

Content (内容) 【思考・判断・表現】	5点	より多くの人マイバッグを持っていくべきかについて、自分の意見を明確にし、二つ以上の理由について具体例とともに順序立てて説明されており、動名詞を正しく3回以上使い、その他の文法にほぼ間違いがなく、First Writing からの改善が見られる。
	3点	より多くの人マイバッグを持っていくべきかについて、自分の意見を明確にし、二つ以上の理由について具体例とともに順序立てて説明されており、動名詞の文法にほぼ間違いがなく2回使っている。
	1点	より多くの人マイバッグを持っていくかについて、一つ以上の情報が書いてある。
	0点	書いていない。
Length (長さ) 【主体的に取り組む態度】	5点	同じ表現を繰り返し使用することなく、例文だけでなく豊かな表現を使いながら、140語以上書いてあり、First Writing からの改善が三つ適切に書かれている。
	3点	140語以上書いてある。
	1点	120語以上書いてある。
	0点	119語以下である。

文法事項【動名詞】

注意点

- ① 挨拶や自分の名前など Topic に関係のない文は語数にカウントしない。
- ② 自分の言葉で会話や発表するために、また聞き手に理解してもらえるように難しい表現を使わない。

**How your speech is evaluated**

The essay is worth a total of 20 points.

Your Essay is evaluated in two aspects below.

思考 判断 表現	Strategies	ポスターなどの視覚的効果	5点	視覚材料を見せる表現を3回以上使いながら、発表している。	
			3点	視覚材料を表示して話している。	
			1点	視覚材料と話が合わないことが何回かある。	
			0点	上記を満たしていない。	
	Content	聞き手が理解しやすい構成	5点	与えられた話題について、二つ以上の情報が具体例や説明とともに順序立てて、表現に工夫をしながら説明されている。	
			3点	与えられた話題について、二つ以上の情報が説明されている。	
			1点	与えられた話題について、情報が説明されているが、文法や語法の誤りが多く伝わらない。	
			0点	上記を満たしていない。	
主体的 に学習 に取り組む 態度	Eye Contact	聞き手を意識しているか	5点	メモなどを見ずに、聞き手を見ながら話している。	
			3点	聞き手を見ながらも、何回かメモで確認しながら話している。	
			1点	メモを見ることが多く、2、3回聞き手を見るだけである。	
			0点	上記を満たしていない。	
	Fluency	適切なスピードと声量	5点	1分30秒以上、聞き手が聞き取りやすい声量とスピードで発表している。	
			3点	1分30秒以上、聞き手が聞き取りやすい声量で2、3回止まりながら発表している。	
			1点	聞き手が聞き取れないところが何回かあるか、何回も止まりながら発表している。	
			0点	上記を満たしていない。	
思考 /10			主体 /10		合計 /20
()年 ()組 ()番 名前()					

自分の言葉で会話や発表するために、また聞き手に理解してもらえるように難しい表現を使わない。

明らかな日本語使用は主体性より1点ずつ減点する。



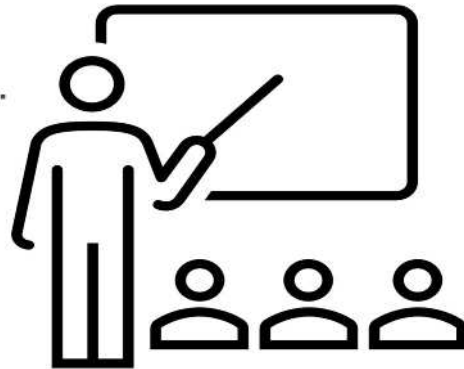
Class() No.() Name()

After writing

Useful expressions

to show your pictures on the screen

- As you can see this picture, ~.
- Please look at this picture ~.
- This picture shows ~.
- This is a picture of ~.



Questions for Timed Conversation

1. Do you think more people should take their own bags with them when they go shopping?
2. Why do you think so?
3. Tell me more about it.



Class : _____ Number : _____ Name : _____

自己評価シート

話す力について(発表)

- 4 決められた時間ほぼ止まらずに話すことができる
- 3 決められた時間時々止まるが話すことができる
- 2 決められた時間よく止まってしまう
- 1 うまくできなかった

4					
3					
2					
1					
	月	月	月	月	月

1 学期の振り返り

目標	
どのような取組をしましたか。 授業内 授業外	どのようなことができるようになりましたか。
↓	↓
今後どのような取組をしますか。 授業内 授業外	どのようなことができず、できるようになりたいと思いましたか。
↓	↓
感想	評価

2 学期の振り返り

目標	
どのような取組をしましたか。 授業内 授業外	どのようなことができるようになりましたか。
↓	↓
今後どのような取組をしますか。 授業内 授業外	どのようなことができず、できるようになりたいと思いましたか。
↓	↓
感想	評価

3 学期の振り返り

目標	
どのような取組をしましたか。 授業内 授業外	どのようなことができるようになりましたか。
↓	↓
今後どのような取組をしますか。 授業内 授業外	どのようなことができず、できるようになりたいと思いましたか。
↓	↓
感想	評価

振り返りシート評価基準

- A (10) : これまでの学びや経験を振り返り、現状把握、新たな課題発見、それを解決しようと今後の学びにつながる振り返りが十分にできている。
- B (6) : これまでの学びや経験を振り返り、現状把握、新たな課題発見、今後の学びに向けて振り返りがおおむねできている。
- C (3) : 項目名と回答があっていない、または、箇条書きのように書いてある。
- D (1) : 提出したが、答えていない項目や、回答が不十分な項目があるが書いてある。



Class : _____ Number : _____ Name : _____

自己評価シート

書く力について(エッセイライティング)

- 4 150 語以上書くことができる
- 3 130 語以上書くことができる
- 2 110 語以上書くことができる
- 1 90 語程度しか書くことができない

4					
3					
2					
1					
	月	月	月	月	月

1 学期の振り返り

目標

どのような取組をしましたか。

授業内

授業外

どのようなことができるようになりましたか。

今後どのような取組をしますか。

授業内

授業外

どのようなことができず、できるようになりたいと思いましたか。

感想		評価
----	--	----

2 学期の振り返り

目標

どのような取組をしましたか。

授業内

授業外

どのようなことができるようになりましたか。

今後どのような取組をしますか。

授業内

授業外

どのようなことができず、できるようになりたいと思いましたか。

感想		評価
----	--	----

3 学期の振り返り

目標

どのような取組をしましたか。

授業内

授業外

どのようなことができるようになりましたか。

今後どのような取組をしますか。

授業内

授業外

どのようなことができず、できるようになりたいと思いましたか。

感想		評価
----	--	----

振り返りシート評価基準

- A (10) : これまでの学びや経験を振り返り、現状把握、新たな課題発見、それを解決しようと今後の学びにつながる振り返りが十分にできている。
- B (6) : これまでの学びや経験を振り返り、現状把握、新たな課題発見、今後の学びに向けて振り返りがおおむねできている。
- C (3) : 項目名と回答があていない、または、箇条書きのように書いてある。
- D (1) : 提出したが、答えていない項目や、回答が不十分な項目があるが書いてある。

実践報告

1 はじめに

「学びに向かう力」の育成には、生徒が自らの学びに関心をもち、自らの目標や進め方を考え、試行錯誤しながら学習を進めることができるようにする指導が必要である。また、生徒は目標や進め方を考える際に自分一人ではなく、他の生徒や授業者と関わることで具体的な目標をもつことができると考える。Murphy (1998)は「同じ文化背景をもち、歳が近く、英語の面でうまくやっている模範を提示することは生徒にとって大いなる刺激となり、その人のやり方をやってみることにつながる」¹と述べている。生徒は自分と似たような年齢や背景をもち、自分よりも学習に成功している人を見るとその姿が目標となる。これを Near peer role models (NPRMs)と呼び、生徒は「これなら自分にもできるかもしれない」という気持ちや、学習の意義や価値を実感することができると思われている。

また、Zimmerman (2002)は「生徒は、目標に合わせて自分の学習効果が高まっていることを振り返ることで、学習者の自己満足度が高まり、学習方法を改善し続けようという意欲が高まる」²と述べている。

「学びに向かう力」を育成するための指導として、友人や教員からのフィードバックや助言を受け取ることで、学習の改善点や次の目標を見つけることができる。また、生徒は自らの学びの過程や成果を記録して、振り返りや自己評価を行うことで、自らの学びに対する見通しや自信をもつことができる。以上のように、「学びに向かう力」の育成に求められる指導は、対話的な学習活動と生徒自身の学習に関する自己調整能力を高めることが大切であると考えられる。

そこで、本研究では以下のことについて研究していく。

- (1) 生徒が対話的な学習を通して「学びに向かう力」の育成ができるのか。
- (2) 生徒の振り返りが生徒の「学びに向かう力」の育成につながるのか。

2 方法

本実践は、本校1年生20人（1クラスを二分割し少人数で授業を行い、授業内容は他クラスも同じ進め方である）、「論理・表現I」（50分授業、週2単位）の授業を対象に実践した。

(1) プロセス・ライティング

プロセス・ライティングは、与えられたテーマについての予備知識を授業の中で膨らませ、いくつかの過程を経て自分の意見を書く活動である。この活動では1回文章を書いて終わるのではなく、表1のような過程を経て一つの作品を作る。

文章を完成させる過程で、生徒や授業者のアドバイスを取り入れることが可能であり、質の高い文章を書くことができると考えられている(Peregoy & Boyle, 2016, p.288)。

¹ Presenting role models who are from the same culture, near the students' ages, and using English successfully (not perfectly) increases our students' motivation and strategy-choice while challenging limiting beliefs. (Murphy, 1998, p. 205 を筆者が和訳したもの).

² learners monitor their behavior in terms of their goals and self-reflect on their increasing effectiveness. This enhances their self-satisfaction and motivation to continue to improve their methods of learning. (Zimmerman, 2002, p. 66 を筆者が和訳したもの).

【表1 プロセス・ライティングの流れ (Peregoy & Boyle, 2016, p.288 に基づく)】

- | |
|--|
| ①1st draft : 考えを膨らませる |
| ②1st Writing : 考えを文章にする |
| ③Peer Editing : 生徒同士で文章を読み合いアドバイスをする |
| ④Final Writing : 生徒や授業者にアドバイスをもらって書き直す |

(2) 発表

生徒は1分程度クラスの前に立って与えられたテーマについてタブレット端末を使用しながら、スライドでイラストや図、表を用いながらライティングで書いたことについて口頭発表を行う。発表の1週間前に評価表を提示し、授業の中で発表を行うまでに生徒同士で練習を行う。順番は、当日くじ引きで決め、順番が回ってきたら、自分のタブレット端末でスライドを表示しながら発表する。

(3) 振り返りシート

振り返りシートを One Page Portfolio Assessment (堀, 2019, p.255)の考えに基づいて作成した。表2はそのシートで生徒が記入する項目である。この振り返りシートは、「書くこと」についてと「話すこと [発表]」について各学期で振り返りができるようにしてある。

【表2 振り返りシート記入項目】

- | |
|---------------------------------|
| ①目標 |
| ②どのような取組をしましたか。 |
| ③どのようなことができるようになりましたか。 |
| ④どのようなことができず、できるようになりたいと思いましたか。 |
| ⑤今後どのような取組をしますか。 |
| ⑥感想 |

振り返り活動が習慣化しておらず、目標を立てることが困難な生徒もいる。そこで、目標についてはライティング課題と発表の際に使うルーブリックを提示して、その評価項目を見ながら生徒が目標を設定するようにしている。1枚のシートに3学期分の振り返りが書けるので、生徒は1年間での振り返りが可能になり、1年間で何ができるようになったか、また、何が足りないのか考えるきっかけになる。

(4) Common Errors

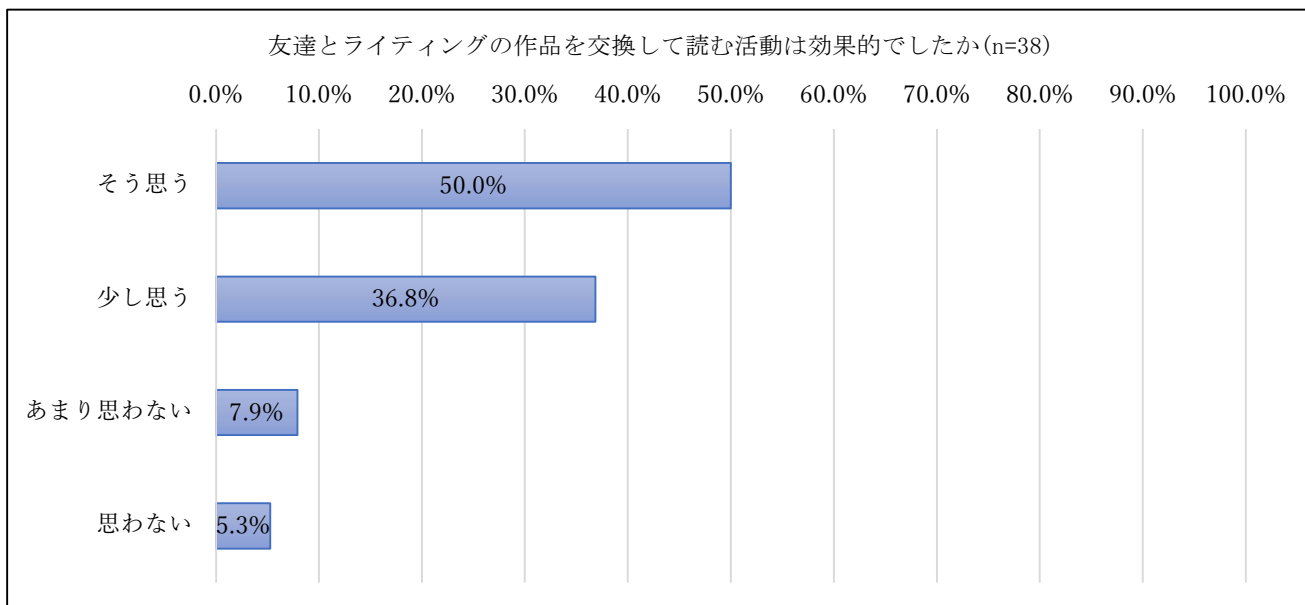
生徒が書いた作文の中に頻出する文法ミスそのまま記載したワークシートを作成し、生徒はその文を生徒同士で相談しながら正しい文に書き直す活動である。

3 結果

(1) 作文を交換して読む活動について

図1は「友達とライティングの作品を交換して読む活動は効果的でしたか」についての数値結果である。「そう思う」「少し思う」と肯定的に答えている生徒が86.8%であり、「あまり思わない」「思わない」と否定的な答えをする生徒は13.2%であった。

表3は「友達とライティングの作品を交換して読む活動は効果的でしたか」についての理由を筆者が例文とともに項目ごとにまとめたものである。友達と作文を交換することで「自分の作文を改善する参考になる」「アドバイスがもらえる」「構成や文法・語法の理解につながる」と答えている。また、一方で「効果的だと思わない理由」としては、「アドバイスを書いてくれることが少なかったから」「読み合っても、間違いに気付くことがあまりなかったから」「何が書いてあるのか理解できなかったから」などがあった。



【図1 「友達とライティングの作品を交換して読む活動は効果的でしたか」についての数値結果】

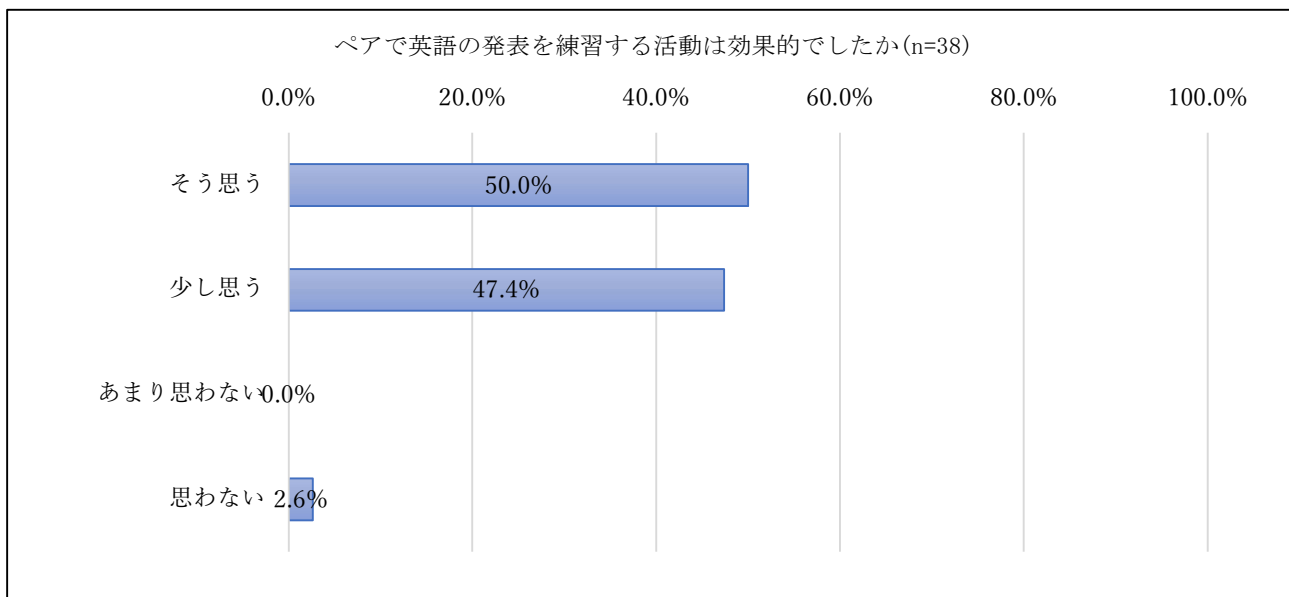
【表3 図1についての理由を項目にまとめた結果】

- ア 自分の作文を改善する参考になる
「自分の書いた英文よりもよかったものがあればそれを参考にして書くことができたから」
「文の構成など自分では考えつかなかったものを、自分の英文に取り入れられたから」
「他の人の文章を読んで、自分の文には無い文章を取り入れることができたから」
- イ アドバイスがもらえる
「友達のよいところをまねできたり、アドバイスをもらえたりしたから」
「アドバイスをもらうことで、セカンドライティングでよりよいものが書けたから」
- ウ 構成や文法・語法の理解につながる
「自分のミスなど気付かなかったことに気付けたから」
「自分が思いつかないような表現や単語が見つけられたから」
「自分の書いたものとは違った表現や文の構成を知ることができたから」
- エ 効果的だと思わない理由
「アドバイスを書いてくれることが少なかったから」
「読み合っても、間違いに気付くことがあまりなかったから」
「何が書いてあるのか理解できなかったから」

(2) ペアで発表を練習する活動について

図2は「ペアで英語の発表を練習する活動は効果的でしたか」についての回答の結果である。97.4%が「そう思う」「少し思う」と回答した一方で、2.6%（1人）が「思わない」と回答している。

表4は、図2で答えた理由を筆者が項目立てて、生徒のコメントを例示しながらまとめたものである。「英語の発音の向上」に関するコメントや「英文の理解力や表現力の向上」「英語での発表力の向上」「作文についての自己確認」に関するコメントが書かれていた。



【図2 「ペアで英語の発表を練習する活動は効果的でしたか」についての数値結果】

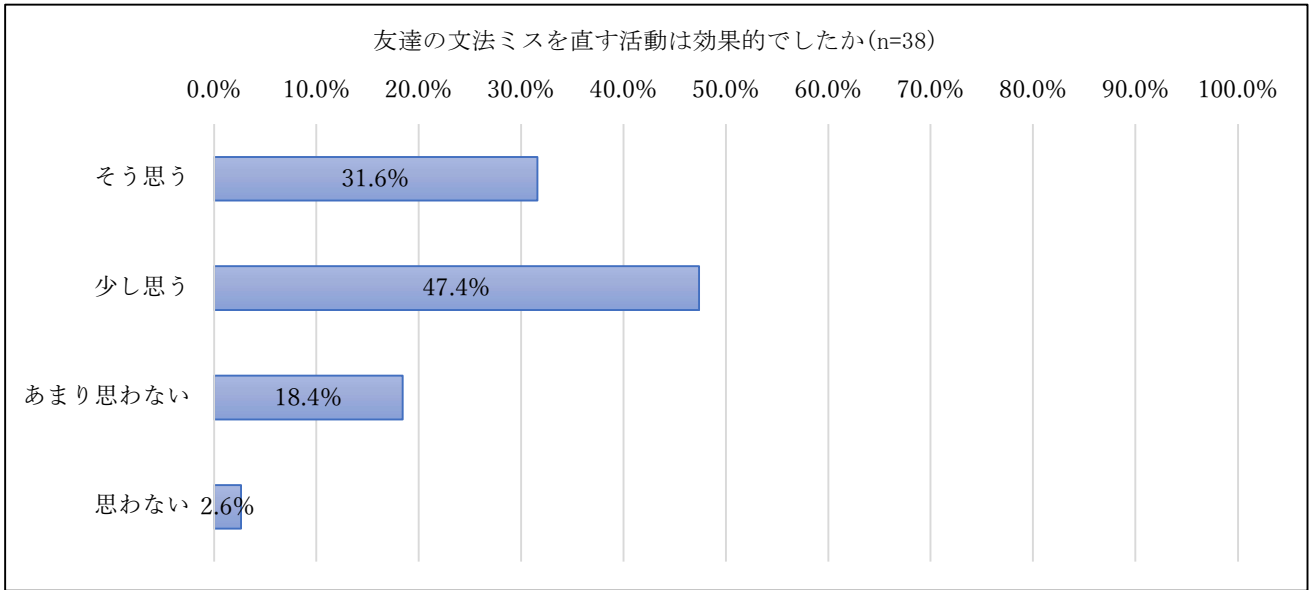
【表4 図2についての理由を項目にまとめた結果】

ア	英語の発音の向上 「授業中に発表の練習をすることでペアと発音の仕方を教え合うことができたから」 「英語の発音を事前に確認できたから」
イ	英文の理解力や表現力の向上 「気楽に練習できるし、アドバイスは1対1の方がしやすかったから」 「少しでも相手の顔を見て話そうとすることができたから」
ウ	英語での発表力の向上 「全体で発表するための練習がよくできたから」 「読むことで少しずつ覚えられるようになり、間違いやすいところが明確になったから」 「一人で練習するよりも少し緊張感があり、実践的だったから」
エ	作文についての自己確認 「やってみると自分が読めない単語が分かったから」 「大変だけど準備をがんばろうと思えたから」

図3は Common Errors について生徒が効果的かどうか得られた回答である。肯定的な回答が多いものの、「あまり思わない」「思わない」と21%の生徒が答えており、この生徒たちは文法ミスを直す活動について効果的だと思っていないことが分かる。

表5は Common Errors について生徒が効果的かどうかについて答えた理由のコメントである。効果的であると思う理由として「自分の文法力の向上」「自分の作文に生かすことができる」に関するコメントが見られた。一方で、生徒は「自分も分からない」ということから「不安要素」を抱えているため効果的でないと答えていることが分かる。

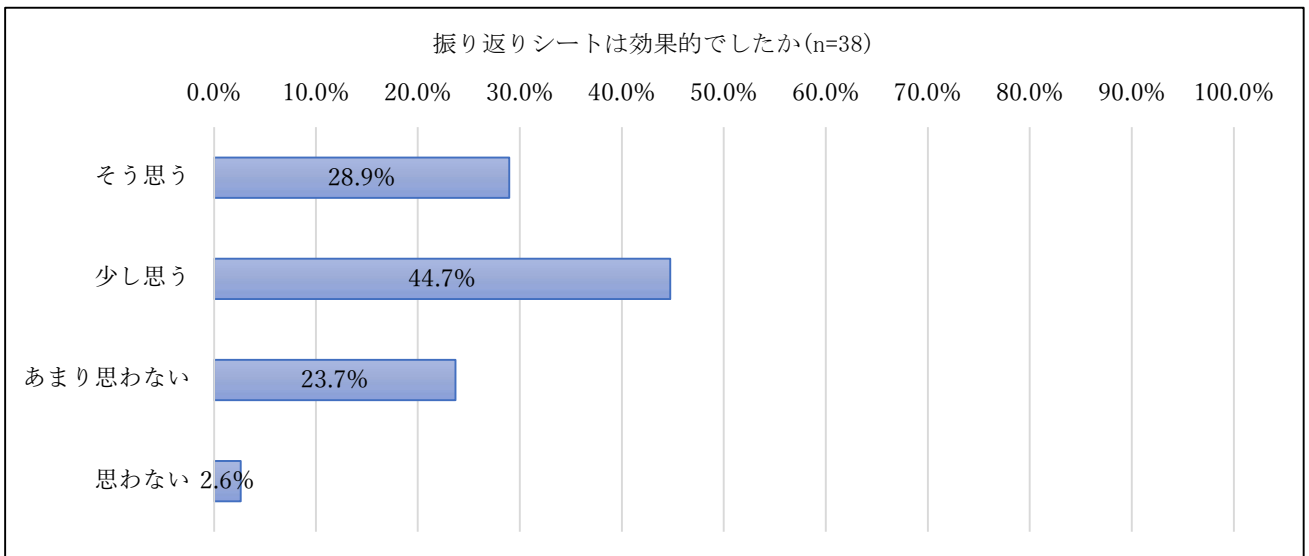
図4は「振り返りシートは効果的でしたか」について生徒が答えた割合である。73.6%の生徒が肯定的であったのに対して、26.3%の生徒が効果的ではないと答えていることが分かる。



【図3 「ペアで友達の文法ミス直す活動は効果的でしたか」についての数値結果】

【表5 図3についての理由を項目にまとめた結果】

<p>ア 自分の文法力の向上</p> <p>「自分の文法の復習にもなったから」</p> <p>「自分の文法の理解を深められたから」</p>
<p>イ 自分の作文に生かすことができる</p> <p>「自分も同じところをミスしていないか確認ができたから」</p> <p>「自分もこのミスよくやってしまうから気を付けようと思えたから」</p>
<p>ウ 不安要素</p> <p>「自分も分からなかったから」</p> <p>「間違っているのかどうか分からなかったから」</p>



【図4 「振り返りシートは効果的でしたか」についての数値結果】

表6は、振り返りシートについてのコメントを筆者が項目を立ててまとめたものである。効果的であると答えた生徒は「次回への目標設定」「自分の状況の把握」について書いていた。一方で、効果的ではない理由として「実効性のなさ」「負担感」が挙げられた。

【表6 図4についての理由を項目にまとめた結果】

ア 次回への目標設定
「1学期の復習や次の学期に向けて目標を立てられたから」
「自分が学期の間に何ができるようになったかが分かり、次の学期の目標を立てられたから」
イ 自分の状況の把握
「自身の課題とその解決方法について考えることができたから」
「振り返りをすることで、できていない部分を見直すことができたから」
ウ 実効性のなさ
「振り返りを行っても変わらなかったから」
「反省を書くときは、それをあまり覚えていなかったから」
エ 負担感
「シートを書くのに多くの時間が必要だったから」
「学期ごとに自分の活動の振り返りができたが、書く量が多かったから」

4 考察

(1) 生徒が対話的な学習を通して「学びに向かう力」の育成ができるのか。

対話的な学習として、生徒はペアでお互いのライティングの作品を読み合ったり、発表前にペアで発表の練習をしたりした。ライティングの作品を読み合う活動については、表3の生徒のコメントにもあるように、「自分の作文を改善する参考になる」「アドバイスがもらえる」など、周りの生徒から影響を受けている様子が見られる。特に、「参考になる」という点においては、他の人が書いていることを自分のことにも生かそうとしている。このことは、Murphy (1998)が述べているように自分と似た文化にある人をモデル化している(NPRMs)と考えられる。さらに、発表の練習においては「英語の発音の向上」「英文の理解力や表現力の向上」を図ることができたであった。生徒のコメントの中に「ペアと発音の仕方を教え合うことができた」と生徒の発表の練習としてだけでなく、お互いに学び合っている様子が見える。このような姿は対話的な学びであると言える。

一方で、この授業について効果的ではないと答えている生徒がいた。それは、活動が自分の能力を超えてしまい、少しの努力ではどうにもならない場合には「学びに向かう力」にはつながらないと考えられる。表3にある「何が書いてあるのか理解できなかったから」や表5の「不安要素」にもあるように「自分も分からなかったから」「間違っているのかどうか分からなかったから」と諦めている様子が見える。やはり、大切なことは「これなら自分にもできそうだ」と思える活動を取り入れていけるように生徒の状況をよく観察することである。

(2) 生徒の振り返りが生徒の「学びに向かう力」の育成につながるのか。

振り返る活動においては、図4にあるように26.3%の生徒が効果的ではないと答えていた。また、その理由として、「実効性のなさ」「負担感」を感じているとあった。このことは清水・林・瀬田(2020)が述べている「主体的学習に不慣れた学習者にとっては学習内容を認識し、自身の学習方略を改善することや、自律的に学習への動機付けを行うことは困難が伴う」ということと一致すると考えられる。振り返り

振り返り活動をするに慣れていない生徒は、振り返ることがどのようなことかイメージが湧かないため、「振り返りを行っても変わらなかったから」という実効性の無さや「シートを書くのに多くの時間が必要だったから」といった負担感へとつながっているのかもしれない。前田・円田・新見(2013)は「自己調整学習方略³については顕著な学年差は見られない」としている。つまり、振り返り活動などの自己調整学習は、どの学年においても実践することが可能で自己調整の効果を高めることが期待される。したがって、効果的な振り返りができるように生徒の振り返り活動を授業者がサポートし、継続的に行うことが大切である。

5 おわりに

今回の研究では、対話的な活動や自己調整を図るワークシートは生徒が具体的なモデルを描くことにつながったり、生徒が自分の学習を主体的なものにすると分かった。その一方で、対話的な活動の際に不安要素を抱かせたり、振り返ることに慣れていなかったりすると、あまり効果的でなくなってしまう。このことを把握した上で、より効果的な学習活動を考えていきたい。

6 参考文献

- ・ *EARTHRISE English Logic and Expression*. 数研出版. 2021
- ・ Murphey, T. "Motivating with near peer role models". *On JALT97: Trends & Transitions*, 201-205. 1998
- ・ Zimmerman, B. J. "Becoming a self-regulated learner: An overview". *Theory into practice*, 41(2), 64-70. 2002
- ・ Peregoy, S. F., & Boyle, O. F. *Reading, writing and learning in ESL (7th ed.)*. Pearson. 2016
- ・ 清水俊匡, 林佑樹, 瀬田和久. 「学習者の主体的な振り返りを促す自己調整学習支援システムの開発」. 教育システム情報学会 2020 年度学生研究発表会. 2020
- ・ 堀哲夫. 「OPPA 論誕生の背景とその理論: 学びと指導の過程および教育の本質との関わりを中心にして」. 教育実践学研究: 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 24, 255-272. 2019
- ・ 前田健一, 円田初美, 新見直子. 「好きな科目と嫌いな科目の学習方略と自己効力感」. 広島大学心理学研究, 12, 45-59. 2013

³ 自己調整学習方略: 学習過程でより効率的な情報処理をするために学習者自身が行う意思的制御のこと(前田・円田・新見 2012)